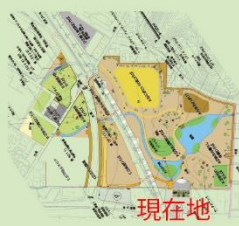


個別説明板 1

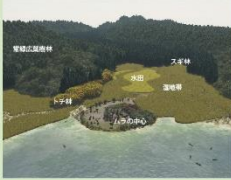
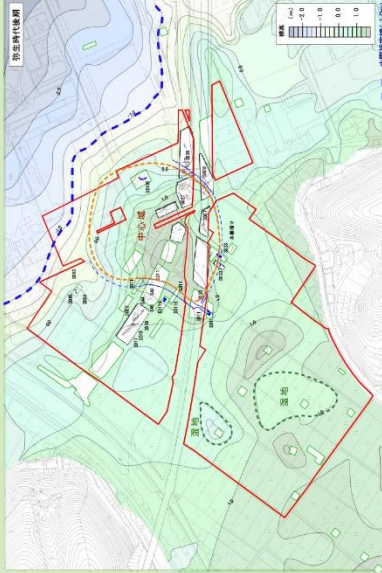


弥生の風景



大きな池を中心に草原が広がる公園の風景は、地質調査などの成果をもとに弥生時代の地形を再現したものです。弥生時代当時、ムラの中心は山陰自動車道の北側の小高い土地にあり、そのすぐ北には海岸線が迫っていました。一方、自動車道南側は湿地帯になっていました。湿地帯は勝部川のはたらきによって生まれたもので、浅い池沼とわずかに高い土地が入り交じった起伏ある地形だったようです。青谷の人々は、ヨシ原となっていた湿地の一部を開拓して田んぼをつくっていたと考えられます。

また、弥生時代の花粉を調査した結果から、周辺の丘陵の上にはカシを中心とした常緑広葉樹林が、丘陵のすそにはスギの原生林が広がっていたと推定しています。当時の人々が見ていた風景は、現在とはずいぶん違っていただようです。

現在の青谷平野周辺の地形
(北側上空から)

CGで復元した弥生時代後期の景観
(北側上空からのイメージ図)

ボーリング調査の成果から推定した弥生時代後期の地形図

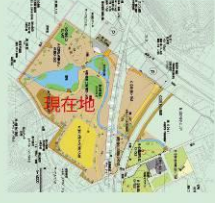
高さ 588mm

- ・イラスト（カット）1点描き起こし。
- ・地図1点イラスト風にリトレース。

個別説明板 2



湿地の植物



弥生時代当時、湿地帯にはヨシが生い茂り、広大なヨシ原が形成されていたようです。弥生時代中頃に水田の開発が始まると、ミズアオイ科ミズアオイ属・オモダカ科オモダカ属などの水田雑草が増えていったことが分かっています。現在、湿地に生えている植物も弥生時代のものと大きく変わらず、ヨシを中心に、池の水際にはコナギ（ミズアオイ属）やオモダカ（オモダカ属）をはじめとした水田雑草が数多く見られます。

＜利用案内＞池の中に入って水遊びや生きもの探しをすることもできます。池の水深は30センチメートル程度ですが、お子様から目を離さないようにお願いします。






ヨシ

コナギ

オモダカ

ミソソバ

湿地周辺に多く見られる水田雑草

- ・イラスト（カット）1点描き起こし。